

論壇

日本ではまれなケース

シャープの売却が新聞紙上を賑わせている。最終的な決着にはまだ至っていないようだが、台湾の鴻海(ホンハイ)という会社が7千億円という大きな額で買収する方向で進んでいる。鴻海は傘下にフォックスコンという会社を持っており、世界中のアイフォーンの生産を請け負っていることで知られている。

アイフォーンを生産していることから分かるように、生産技術では世界有数の実力を持っている。中国国内に何万人もの労働者を抱える工場をいくつも持つて

伊藤 元重

東大教授(国際経済学)

おり、そこで世界中のパソコンやスマートフォンを生産している。ただ、これまでは自社のブランドを持つていなかった。そういう意味では、シャープのブランドは魅力的であったのかもしれない。また、シャープが持っている技術で魅力的なものがあつたのだろう。

海外の企業に買収されることでは、問題が逆で、こうしたケースが少なすぎるということだ。米国でも欧州でも、自国企業が大半にして外国の企業を買収すると同時に、海外の企業が米国や欧州国内の企業を大量に買収している。つまり、買収などの形での海外への投資も非常に多いが、海外からの

残念ながら、日本だけはそうやって海外への投資を増やしていく。海外の企業を買収する日本企業も多い。ところが、海外から日本に向けた投資は相変わらず非常に少ないのだ。シャープや三洋の買収のような事例は、むしろ例外的であるといつてよい。

経済全体に大きな意義

なぜ、日本への投資がこんなに少ないのか、その理由は様々あるだろう。政府や地域は、海外からの投資を拡大するため、様々な取り組みをしている。海外からの投資を呼び込むことは、それだけ地域の経済を活性化することにつながるからだ。

買収が実現したとすれば、7千億円の投資が日本に対して行われることになる。日本経済全体にとっても、大きな意義があることになる。台湾の企業を買収したとはいっても、日本国内で地元の従業員を活用しながら生産や開発を続けていく。どのような経営をするのかは注視しなくてはいいけないが、シャープの経営をこんな状態にしてしまった日本人の旧経営陣よりも台湾の経営者の方がよいかもわからない。

私の大阪の友人は嘆いていた。大阪の人にとっては、シャープや三洋は地元を代表するメーカーであった。そうした有力なメーカーが、台湾や中国の企業に買収されていくことに寂しさを感じるのだろう。

ただ、日本にとっての問題は、こうした形で日本の企業が次々に海外の企業に買収されることでは、問題が逆で、こうしたケースが少なすぎるということだ。米国でも欧州でも、自国企業が大半にして外国の企業を買収すると同時に、海外の企業が米国や欧州国内の企業を大量に買収している。つまり、買収などの形での海外への投資も非常に多いが、海外からの

そうした意味では、今回のシャープの件は、もし台湾企業による

シャープの事例の評価をするところがこの論考の目的ではない。ただ、今回のケースのように、海外の企業がより積極的に日本の企業を買収するケースが増えてほしい。そして日本の企業も積極的に海外企業の買収を続けるのだ。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。